

# ひょうごの遺跡

平成16年  
10月30日発行  
53号

兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2-1-5 TEL 078 531)7011 FAX 078 531)7014

ホームページアドレス <http://www.hyogo-c.ed.jp/~maibun-bo/>

## 埋蔵文化財との出会い



土器や石器・竪穴住居や古墳など - 埋蔵文化財は、昔の人が残したタイムカプセル。生活をささえた知恵や、地域の生いたちがいっぱい詰め込まれています。最近、埋蔵文化財に込められた、生活の様子や知恵を学ぶ試みが増えてきました。

本号では、学校や地域で埋蔵文化財と出会う「きっかけ」づくりにスポットを当て、埋蔵文化財調査事務所が進める様々な取り組みをご紹介します。



## 学ぶ



**新しい学びの場** - 社会の変化にあわせて、“学び”の姿にも変化が求められています。「教科書に教わる」から、自分で考えて答えを見つけるスタイルへ。学校で・博物館で...埋蔵文化財の育む「新しい学び」が始まっています。

### 学校で学ぶ ～石器を作る？わたしが？ 出前授業から～

某月某日、中学校の社会科の授業として、弥生時代の石器作りを体験してもらいました。欲しいものは、作らずに“買う”現代。道具をつかって、自分の手で何かを作り出す機会がめっきり減っています。遺跡から出土する石器と同じ材料で作り方を体験することで、教科書にはない発見を感じてもらいました。

授業ではまず遺跡から出土した石器を見て触ります。モデルは社会科の授業で習った「石庖丁」ですが、本物の質感に興味津々。「山から拾ってきた石をどうしたら石庖丁にできる？」「穴があいているのはなぜ？」疑問を引き出し、



イメージも膨らませます。作りはじめると、うまく割れない・思った形にならない・穴が開かない...。アドバイスを手がかりにイメージの石庖丁へ近づけるのは、根気との闘いです。

苦労した完成品で草を刈ってみると、想像以上の切れ味に歓声が！自分の手で「道具」を作り出した実感は、強烈な印象をあたえたようです。講師として教壇に立ち、緊張の連続でしたが、埋蔵文化財から驚きや感動が飛び出す瞬間を目の当たりにして、逆に教えられることが多くありました。



### 失敗に学ぶ体験学習 ～土器作り...実験と試行錯誤～

「土器作り」は、縄文土器や弥生土器の作り方を体験する学習プログラムです。粘土をこね、形を作り、乾燥させ、焼くといった作業を行います。多くの問題にも直面します。たとえば土器を作る粘土をどうやって手に入れるか？採掘する機会が少ないので、市販品を使っています。また土器をどこで焼くか？野外にワラや材木・泥で作った窯を作らなければなりません。また一昼夜ぐらい火の管理がいります。今のままでは手軽には行えないのです。

手軽で失敗しない方法を探るため、スタッフで様々な努力を重ねてきました。現在は、手早く焼きあがる方法を目指して、実験と失敗を繰り返しています。

四苦八苦を重ねるうち、実験も一般の参加者と分かち合えないか？と思うようになりました。完成された体験学習プログラムだけでなく、失敗を繰り返しながら、スタッフも参加者もともに学ぶプログラムも必要と思っています。

まだまだ、われわれの試行錯誤は続きます。





## 古代体験学習交流会 『大遺跡メッセ』

学校や博物館で、埋蔵文化財を使った学習の目的は何か？ 効果の高い学びの方法は何か？ を考えるため、8月17・18日に「古代体験学習交流会」が行われました。

兵庫県内の小学校から高校の先生、発掘調査や博物館に携わる職員が集まり、講義や体験メニューの実践を通して意見交換をしました。

17日は、講演や先進的な取り組みを進めている学校・博物館の事例報告、サポートする立場の方々からの提言を中心としたフォーラムです。

講演では、兵庫教育大学の岩田一彦先生が、社会の変化によって、生きるための智慧や地域に対する共感を学ぶ場所が学校に移りつつある現状をふまえ、古代の体験を通じた学習には「疑問を自ら解き明かす」「人とふれあいながら学べる」など、様々な可能性が秘められていると指摘されました。

次いで、学校教育からは、小学校と中学校における体験学習を取り入れた授業例が発表されました。「地域の遺跡」や「古代の技術」といったテーマに体験メニューを組み入れることで、児童・生徒の反応に普通の授業では見られない「実感をもった理解」が感じられたとのことでした。

また、博物館の取り組みでは、地元の方々に幅広く参加を求めることで、生きた智慧と経験が組み込まれた、世代や地域性をつなぐ学びへと展開させた事例が発表されました。

引き続き、神戸女子大学の寺沢知子先生から「古代という時間枠にとらわれず、体験学習の可能性を広げる試みが重要」との提言、そして体験学習に取り組む考古学者の藤池さんから「体験学習の参加者と、考古学的な成果を自然につなぐ役割の必要性」を指摘していただきました。最後に、参



加者からは、学校の先生と博物館や発掘調査に携わる職員の立場・考え方を明らかにした上

で、「必然性のあるテーマの設定が重要」「埋蔵文化財は学校教育の素材だけでなく、地域の結びつきも引き出せる」などの意見がありました。

18日は、体験メニューに参加いただき、より具体的な意見を交わしました。台風15号の風雨に見舞われて規模を縮小したにもかかわらず、熱心な参加がありました。13の体験メニューから、特に人気のあったものをご紹介します。

土器作りでは、悪天候で野外に造った窯の様子が心配でしたが、無事に焼きあがる瞬間の様子を見ていただけました。また粘土をこねて土器を作る体験を通じて、土の練り具合や水の加え方、形の作り方などの工夫に、関心が寄せられました。

石器作りは、当時と同じ材料で作り方を体験できるとあって、興味を集めました。石の塊を割り、刃をつくる工程はなかなか難しく、古代の高い技術を感じていただけたようです。

空ビン溶かして作るガラスの勾玉づくりには、材料のリサイクル性に注目が集まりました。ガラスを溶かすときに上がる大きな焔は、パフォーマンスとしても迫力満点でした。



ガラス勾玉作り

講座や体験を通して、先生と直接意見を交換できたことは、今後につながる大きな成果です。様々な体験メニューが多くの学校で行われる日も、遠いことではない - そんな期待を抱いた2日間でした。





“まなぶ”は“まねぶ” 教えてもらうより、自分の手でやってみると、よくわかるし楽しい！ そんな思いを積み重ねておられるのが、埋蔵文化財のボランティア“考古楽者”さんたち。多彩な活躍ぶりを、メンバーの声とともにご紹介します。

## 考古楽者さん、まもなく出番ですよ！

平成19年度、播磨町の大中遺跡に開館予定の県立考古博物館（仮称）は、「ネットワーク」「体験・思考」「変化・成長」をキーワードとする、新しいスタイルの参加体験型博物館を目指しています。

ここでは、来館者をお迎えし、様々な古代体験学習のお手伝いを支援する“考古楽者”さんたちが活躍することになります。

### 博物館先行ソフト事業としての “考古楽者”養成セミナー

博物館の建設にさきがけ、平成14年度から多様な先行ソフト事業を展開しています。これは新しい博物館の魅力をみなさまに広く知っていただくためのイベントです。開館と同時に活躍していただくボランティアの育成やイベント・プログラム、展示手法の開発など、各種ソフトの充実をめざすものです。考古博物館は、もう動き始めています。新しい博物館を、ひと足先に体感してください。

ソフト事業のなかでも“考古楽者”養成セミナーでは、考古学や文化財の基礎講座や遺跡の発掘調査、体験学習メニューなどの学習を通して、将来の考古博物館で活躍いただけるボランティアを育成します。さらに“考古楽者”は、地域の歴史文化遺産を活用するリーダーとして活躍する人材となることが期待されています。これまでの教養としてのみの考古学セミナーとは異なり、身につけた知識を具体的に博物館において生かすことを目的としており、生涯学習としての考古学の新たな可能性を開くことができるでしょう。

### “考古楽者”による “考古楽倶楽部”の活動

養成セミナーを修了した“考古楽者”は、第1期、2期生あわせて現在3名となり、自主的な活動を進めるために“考古楽倶楽部”を設立しまし

た。倶楽部では、古代体験ワークショップのメニューの開発に取り組み、パラフィンでつくる「ろう鐸」、植物の栽培から布づくりまでの「古代の織物」、ガラスを溶かした「勾玉づくり」などを考案しています。また、小学校での「総合学習」のお手伝いや、資料館や教育委員会が主催する古代体験教室の講師に招かれ、いろいろな教育現場での活動も始まりました。

また、発掘した大中遺跡の出土土器を洗浄、接合し、平成15年度考古博物館先行展「体感！弥生時代」、同じく16年度「私たちの由来」に出展しました。自らが復元した土器の展示レイアウトから遺物解説も自発的に行い、期間中は史跡公園の復元住居と古代体験メニューを組み合わせたスタンプラリーを行い、シンポジウムでもスピーカーとして、壇上から考古学の楽しさを発信しました。

### これからの“考古楽者”

考古楽者にとっては、本格的な活動の場となる博物館が完成するまで、今しばらく時間が必要です。しかし、こうして「考古学の楽しさ」を体感し、共有しながら、開館までに積み重ねられてゆく多くの経験は、将来の博物館ボランティアとしての貴重な糧であり、無形の財産になることは間違いのないでしょう。

今年からは、考古楽者養成セミナーにも支援者として参加、受講者である「考古楽者の卵さん」と楽しく接しておられます。「考古楽者を育てる考古楽者」に成長してゆく姿は、実に頼もしいかぎりです。そして、社会教育・学校教育をサポートし、地域に根ざした学習支援ボランティアとして活躍されることを期待したいと思います。



## 私の、考古‘楽’体験

考古楽倶楽部 榮木保幸

「遺跡の発掘ができる」という動機で申し込んだ考古楽者養成セミナーでしたが、いざ、実際に子供たちといっしょに古代体験してみると面白くてしょうがない。「ありがとう」なんて言われると、また次もやってやろうなんて思ってしまう。子供たちが大きくなって、今日の体験を少しでも思い出してくれるとうれしいですね。

技術や道具を駆使してすばらしい壺ができあがる陶芸教室に比べ、土器づくりは壺の形が変でも昔の人の知恵を実感し、生活が想像できます。その地から出土した土器などを見ると、一層地域に対する愛着が湧いてきます。

あまりにも知らなさすぎる故郷の歴史を勉強しようと、資料館の館長を紹介してもらいました。その



館長は著書の中で、ご自身の考古学との最初の出会いを、こう書いておられました。「小学校の四年生のときに、近くの川にできた砂浜に、六年生が土器を拾いに行こうと誘い」、「多くの破片をみんなで採取したが、自分だけが完全なままの土器を2つも見つけた」と。読んだとき、私も同じように土器拾いをしたことを思い出したのです。六年生のときに下級生を集めて、河原で土器を拾って学校へ持って行ったことを。家は近所で歳も同じぐらい、多分、同じころの体験だと思います。すっかり忘れていましたが、考古楽者にならなければ一生思い出していなかったでしょう。

## いにしえ人との出会い

考古楽倶楽部 永野雅子

「ありがとうございます。この勾玉、僕の宝物だよ」と嬉しそうな顔で帰ってゆく子供たち。- 私のほうこそ、あなたといろんな話をしたりがんばっている姿を見て、豊かな気持ちになれることに感謝しているんですよ -。

ものづくりに夢中になっている方々と接しているうち、セミナーの講座で古代のものを見て触れながら、ものづくりをしたときの私と同じだなと思ったのです。体験的に物事を学ぶ楽しさや感動。知識や技術は未熟な私ですが、それを伝えることはできるのでは？

古代体験で皆さんに喜んでもらえるよう、なるべく失敗のないようにと緊張します。特に子供のがっかりする様子を見るのはつらいです。いろいろな方の助言をいただいて、技術の改善、開発に努めています。会合だけでは時間がたらず、自宅で作ることも多くなりました。材料や道具は増殖中。家族は次に何が始まるのやら興味津々。他の考古楽倶楽部員も、「状況は同じ」と聞き、大笑いしました。

活動の場が増えるとともに、順次初登場の考古楽者も増えています。お互いに協力して、いにしえの人々を身近に感じていただけるような楽しい出会いを築いていきたいです。考古学をちょっと斜めに見る、学者ならぬ“楽者”だからこそ、の発想と大胆さで。







**「眼」は知識への扉** - 百聞は一見にしかず。展示会や現地説明会、ホームページなど、様々な機会を通じて埋蔵文化財を見ていただき、最初の出会いを演出します。

これまでに、近所から見つかった埋蔵文化財を見たことはありますか？

## 展示会で見る

～平成16年度 夏季先行展「私たちの由来 明石人から現代人まで」～

県立考古博物館（仮称）の先行ソフト事業の一つとして、建設に先立って、兵庫県内で発掘調査された遺跡の様子や出土品をお見せする“先行展”を、平成16年7月1日～9月5日まで加古郡播磨町立郷土資料館で行いました。

夏休み期間限定で現れた「考古博物館」の様子をご紹介します。

第部のはるかなる「明石人」は、アフリカ・タンザニアのラエトリで発見された世界最古の足跡標本や猿人・原人・旧人・新人の頭骨模型と顔の復元品、そして明石人の寛骨（レプリカ）やナウマン象の化石骨を中心としたヒトの進化の展示です。明石人は、本物が残っていない現在、評価の難しいものです。その年代的



な位置付けを、春成秀爾氏の再発掘調査と明石市教育委員会が調査した藤江・川添遺跡出土のハンドアックスから示しました。また、明石人発見当時の西八木海岸と現在の西八木海岸の写真パネルも置いてみました。

第部の「骨考古学」から見る過去と未来では、高砂市日笠山貝塚出土の頭骨（レプリカ）をはじめ、縄文人と弥生人の頭骨写真とその顔の復元パネル、そして朝鮮半島から持ち込まれた土器や古代人が描いたヒトの顔、さらに縄文・弥生時代の食物と現代の食物を並べました。この中では、顔など骨格の変化について混血による場合と食物など環境の変化による場合



が大きいことを挙げ、それぞれ個人差はありますが、現代の日本人は縄文人の顔かたちと共に、弥生人の顔かたちを受け継いでいることを知ってもらいました。



最後は、県内の出土人骨で、発掘現場から土ごと切り取ったものを2体展示しました。神戸市の新方遺跡13号人骨と玉津田中遺跡4号人骨です。本物の人骨はどう感じましたか。骨からでも、性別や顔立ち・身長、そして病気・出産歴など様々なことが分かるのです。

その他、体験できるコーナーとして縄文人（垂水日向遺跡）と古墳人（志知川沖田南遺跡）が残した足跡に、来館者の足を重ねて比較したり、神戸市王子動物園チンパンジー後足の拓本横に、来館者の足跡をつけて記念品（拓本）を作りました。

延べ42日間の開館で、11,135名の方々に見学していただきました。夏休みと重なり、平日でも150人前後、土・日には300人を超える入館がありました。皆さんありがとうございました。特に、考古楽者の方が参加された日は、館内に活気が溢れ、実にいい雰囲気でした。





## 発掘調査現場で見る ～発掘現場は地域と私たちを結ぶ、最前線～

私たちの事務所は、神戸市の中ほど海寄り、兵庫区荒田町にあり、職員 48名を抱える大所帯です。それでも、広大な兵庫県の中では偏った位置にあり、小さな点に過ぎません。

職員のうち約 20名は、一年の大半を県下各地の発掘現場に赴きます。先月まで但馬で古墳を掘っていたかと思えば、今



出土品の出前展示（南光町三土中学校）

月からは西播磨で窯跡の調査ということも珍しい事ではありません。

発掘現場では、日々の調査に追われながらも、現地説明会を通して調査成果を一般に公開するだけでなく、体験発掘や現場見学会、出前説明会、出前展示、トライやる・ウィークの受け入れなど、地元の小中学校を中心に様々な試みを行っています。

つまり、発掘現場は埋蔵文化財調査事務所と地域を結ぶターミナルとしての機能をもっており、事務所の前線基地と言えます。

調査に追われて十分な事ができないことも多いのですが、近くで発掘現場を見かけたら、地域の歴史を学ぶ生きた教材としては是非ご活用下さい。



遺跡の土で土器を焼きました  
（山東町栗鹿小学校）



発掘現場の見学会（三原町神代小学校）

## インターネットで見る ～ホームページで、家にいながら遺跡見学～

埋蔵文化財調査事務所のホームページは平成 12年 3月に開設し、手軽に埋蔵文化財の情報を得られるページとして親しまれています。開設以来、事務所の職員が手作りで最新情報を掲載、昨年の 12月にリニューアルし 2代目のホームページとなりました。現在は、月 1万件をこえるアクセスがあります。

今後、ますます期待に応えるようなHP作りを目指します。ご注目下さい。

更新内容を分かりやすく表示。まずはここで気になる最新情報をチェックしてください。

下にあるアイコンは、特に人気の高いお勧めのページです。

事務所が行う発掘調査や現地説明会の予定、展示会、シンポジウムといった各種イベント情報や兵庫県の考古学情報など知りたい情報が満載です。



- ・『ひょうごの遺跡』ページでは手に入らないバックナンバーを掲載しています。気になる号をチェックしてみてください。
- ・『現地説明会資料』ページには、過去に行われた現地説明会の資料を掲載しています。
- ・兵庫県が誇る考古遺物については『県指定考古資料』ページへどうぞ。
- ・『兵庫県考古資料集成』ページは県内の考古資料について、検索をお手伝いします。



考古楽祭

第2回 埋蔵文化財収蔵庫展

# 木の遺物を守れ!

好評の埋蔵文化財収蔵庫展。第2回目を開催します。今回は、収蔵庫でおこなわれている仕事のうち、「木製品の保存処理」にスポットを当てます。

普段はあまり見ることができない収蔵庫の中身や、遺跡から出てきた木のかずかず。文化財を守る“技術と成果”を、期間限定で、大公開します。



前回、好評だった古代体験も、さらにグレードアップ! 大人から子供まで、存分にお楽しみいただけます。



「知る」「調べる」「残す」「測る」「守る」 5つのテーマにそって、作業の公開はもちろん、職員による丁寧な解説、関連する遺物の展示もおこないます。

と き 平成 16 年 11 月 6 日(土)~ 8 日(月)  
午前 10 時 ~ 午後 3 時  
と こ ろ 明石市魚住町清水字立合池の下 630-1  
魚住分館 (県立明石清水高校南隣)  
問い合わせ TEL 078-947-4131  
交通機関 JR 魚住駅から北西へ、徒歩 20 分。  
主 催 兵庫県教育委員会  
埋蔵文化財調査事務所



編 集 後 記

当事務所では、発掘調査の現場だけでなく、学校や博物館、そして公民館など様々な場所で、埋蔵文化財を知っていただく活動を行っています。

思いをうまくお伝えする難しさを感じつつ、手探りを続けています。

埋蔵文化財は、地域の先輩からのメッセージ。そこからなにを読み取り、どうやって今の生活に活かしてゆけるのか? 県民のみなさんと、ともに考えてゆきたいとおもいます。ご支援をよろしくお願いします。

(M.K)